

社会・経済システム学会
1997年 第16回大会
報告要旨集

1997年11月1日(土)・2日(日)
関西大学100周年記念会館

生活情報構造モデルと生活情報史観

金蘭短期大学 三石博行

E-mail h-mitsuishi@kinran.ac.jp

キーワード 生活情報、精神分析、生活情報史観、生活情報構造モデル、生活情報発生モデル、阪神大震災

1、生活情報の精神構造分析

生活構造の観念形態としての生活情報

衣食住に関する情報はもちろんのこと、人間環境に関する全ての情報が生活情報である。

生活情報の構造は、言語、規範や道具の発生、つまり人間生活技術の成立によって生み出され、家族、共同体の生活様式として形成された。生活情報は生活の発生史を通じて、人類が生き延びるための知恵や技術である。生活情報が文化や社会機能の道具であり、コミュニケーションや生産活動の基盤を構成していると考えらるなら、生活情報が蓄積され構造化されたものを文化や伝統と呼び、生活情報が生産、流通、交換、消費そして再生産する循環系を、社会経済システムと呼ぶことが出来る。

生活情報は、社会構造の歴史性や文化性を所有し社会経済システムの要素として機能しているので、文化や社会生活構造の観念形態となり、現実の利益を限りなく追い求める生活活動の道具となる。

生活構造と生活機能

機能と構造は、言語の情報形態と表象の物質形態に、外的世界と内的世界に分けられた人間的認識の在り方の両面である。機能と構造を分離させ、他を一方から独立させて取りだすことは出来ない¹⁾。

生活情報とは、生活という構造化された概念と人間活動を構成する全ての要素の機能についての概念である。例えば道具の使

い方は、それが発案され生産された時から決定されていたものであるから、未知の道具を使いこなすには、まずその機能を知り、その使い方を学習しなければならない。技術は道具の機能を最も効率よく引き出す動作の規則であり、技術を身に付けるには、あらかじめ決まっている身体の運動、規則の配列や論理の組み合わせを知る必要がある。

文明としての生活構造と文化としての生活情報

等質の文明では、地理的に隔たる社会や集団の間でも類似した生活構造、社会、経済システムの形態、技術や生活情報がある。それらは互いに交換しあっている。

外部から相互作用を受け、共同体の中では通時的ゆらぎが生じる。つまり社会身体の規則、技術、道具やコミュニケーションの論理は、ちょうど通時的構造の流行やモードのように変化し続ける文化的ゆらぎを持つ。そのため同じ文明の中にも、多様な文化が生じる。

共時的構造のように、等質の文明の内部では、社会身体のパラダイム、共同幻想や共同主観、共同観念形態の基本軸は変わらない。そのため生活の基本的形態である生活構造は共時的に固定され、どの文化もその文明に共通した構造を持っている。

文明としての生活構造も文化としての生活情報も言語のように構造化されている。

文明的進化の方向と文化的形態の多様性

文化と観念形態の相互規定によって、道

具の構造と機能の進化の方向が生じる。それを改良と呼んでいる。それらの改良の多様性も、素材や加工技術によって限定される。それぞれの風土的環境に適応しながら、改良を通じて道具や機械は多様化する。

道具の進化の方向は、それが生産された文化的、風土的、歴史的条件によって、決定される。したがってそれらの進化の多様性も、その素材や生活構造に影響される。つまり、文明の形態が生活構造の進化の方向を決定し、文化の形態が生活様式や生活情報の多様な可能性を決定する。

精神機能としての生活情報の構造

フロイト精神分析学の経済理論のモデルによれば、理性の形成は自我が現実則を受け入れたとき始まると考えられる²。エディプスコンプレックスという快感原則支配型の自我から現実則支配型の自我へ移行する過程で生じる葛藤を経ることによって、第一ナルティシズムで機能していた自我が、社会の規範を受け入れ、第二ナルティシズムによって機能する自我に生まれ変わる。

人間は、自然的法則への盲目的服従から解放され文化的規範に同意するために、象徴として父を作りだした。父は、雄親のように強い身体的力ではなく、正義、理想、理性や合理性を支配の道具にした。象徴的父は現実則と呼ぶ規則を打立てる司法権力の支配者である。幼児は自己の欲望を充たそうとしてことばを習得習得の過程で、規則に従うことを学ぶ。

現実則に従って機能する自我をフロイトは第二過程と呼んだ。第二過程の形成と発展を通じて、自我の中で理性的思惟が形成され、発展し、社会的共存の為の技術やコミュニケーションの手段を獲得する。自我は技術、ことば、道具や規範、生活の現実的で合理的な手段を身に付ける。

第二過程の形成で現実的な生活情報に入力、集積、構造化する。自我は生活の知恵や習慣、社会的共存やコミュニケーションの為の知識や技術を身に付ける。生きる知恵と呼ばれる生活情報は現実則によって登録された情報である。

しかし、生活情報には不合理なもの、まったく現実の利益に合わないもの、隠れた快楽を求めるもの、犯罪に結びつく情報もある。それら全ての生活情報が社会経済システムの機能を構成している。

2、生活情報史観からの生活情報構造の分析

生活情報の構造モデル

生活情報の構造分析を進めるために、生活構造の分析が必要である。それは現代社会の生活ではなく、人類が発生して以来の生活概念に基づく生活構造の分析から進めることにした。

一次的生活情報

最も基本的な生活要素として衣食住がある。それらは人間生命の個体保存のための基本的な生活構造を構成する。さらに家族、共同体、社会集団の機能を維持するための規範、タブー、習慣、道具や言語と呼ばれる種族保存の生活構造がある。これも同様に基本的な生活構造を構成している。人間はその発生から社会的生物であったと考えられるため、それらの個体保存と種族保存の生活構造は一つの形態を取っていると考えられる。そこで、それを纏めて、ここでは一次的生活構造と呼ぶ。そしてこれに即して発生している生活情報を一次的生活情報と定義する。

二次的生活情報

次に考えられる生活情報は、時代や地理的に多様化している文化や社会システムの

機能を維持している構造から生じている情報である。その情報は、社会独自の階級・身分制度や法律、社会制度、流通、経済の制度の維持に必要なものである。例えば、政治、経済、法律そして教育にかんする生活情報が、その最も良い例である。社会機能を維持し再生するための生活情報を二次的生活情報と定義する。

三次的生活情報

個体保存、種族保存、文化や社会システムの維持のための情報とは別の過剰な生活時間を消費するための生活情報、つまり余暇、レジャー、文化活動、遊び等々と呼ばれる生活情報がある。その生活情報を三次的生活情報と定義する。

結論すると、生活情報は以上の三つの構造を持つと考えられる。

生活情報構造モデルとしての生活情報史観

生活情報の発生史は即人間生活の発生史である。したがって、その課題を展開していくために、文化人類学的視点を導入しなければならない。生活情報構造には唯物史観のような構造的発展形態はない。人類史の始めから全ての質の異なる三つの生活情報構造が存在し、それらの量的関係のみが社会システムの質的関係を決定している。違う文明では、その三つの生活情報量の占める比率が違っているのではないかと想像できる。

石器時代のように道具の素材を自然に依存していた社会、青銅器や鉄器のように道具の素材を人工的に造った時代、道具から機械に変化した工業社会、論理する機械を造った情報社会と、それぞれの質のことなる生活構造が生みだされ、生活情報が発生したと考え、生活情報史から見ると人類史を四つに区分する。

生活情報の三つの構造はどの文明にも存在していた。それらはそれぞれの文明で量的な限定を受け、その量的な限定が文明の形態を生み出した。この生活情報史観は文明の形態を文化人類学的な生活情報論から解釈を生活情報史観と呼ぶ。これは生活情報構造のモデルである。

3、阪神大震災で発生した生活情報の分析モデル

阪神大震災と生活情報

阪神大震災は現代社会文化の生活基盤を奪った。人々は、そこから今までにあった社会機能を回復するため、復旧作業に取り組んだ。そこで発生した生活情報こそ、生活情報の構造を分析するための材料を与えてくれている³。そこで、すでにマスコミによって情報検索可能な状態に情報化されているデータベースを活用し⁴、生活情報を分類してみた。

生活情報発生率変化グラフ

生活情報発生率変化とは、ある期間中に発生した生活情報を、小期間に等分された期間中に発生した情報との比率を求め、その比率の変化した経過を求めることによって、情報の発生比率の変化を示すものである。

これは、震災直後からその情報の発生比率変化によって、その情報に関して社会的関心の変化や問題意識の変化を理解することが可能になる。

この変化を生活情報発生率変化グラフと呼ぶ。

情報発生確率変化グラフ

次の情報発生確率変化とは、ある期間中に集合として存在するある生活情報とそれを構成している部分集合の情報の比率を求め、その比率が、その期間を等分して出来

た小区間ごとに、相対的に変化する度合いを示すものである。

区分された小期間ごとに变化していくこれらの度合いを全期間を通じて求めることによって、その注目の度合いの相対的な変化が理解できる。

この変化をここでは情報発生確率変化グラフという。

阪神大震災直後から一年間に発生した生活情報の生活情報構造モデルの実証的研究

一次的生活情報の発生モデル

水、電気、ガス、等の一次的生活情報は、震災直後高い発生率を示しそれは急激に減少するので、生活情報発生率変化グラフは震災直後からある期間まで急激に減少し、それ以後は緩やかに低い数値をしめす。発生確率も震災後は高く、その後は低い値をしめすので、情報発生確率変化グラフは震災直後は高くその後急激に減少する。それらは逆比例関数になる。

二次的生活情報の発生モデル

学校、病院、交通、等の二次的生活情報の情報発生率は震災直後高く、その後緩やかに減少してゆく。情報発生率変化グラフは一次的生活情報と同じパターンをとると考えられる。しかし、情報発生確率変化のグラフは、その平均的な発生確率は災害直後から、一定期間ほとんど変化していない。この情報の情報発生率変化は逆比例関数になるが、情報発生確率変化は定数に近い型で現れる

三次生活情報の発生モデル

娯楽、等の三次的生活情報の情報発生率の変化は、震災直後から、ある期間を増えたり減ったりしながら、ほとんど変化を見せない。情報発生確率は、震災直後は非常に低い、時間とともに次第に高くなる。その他の生活情報に比べて、この三次的生活情報の特色は、情報発生率変化グラフが定数に近い型で現れ、情報発生確率変化グラフが一次方程式に近い比例関数になることである。

注

¹ 今西錦治「生物の世界」

² MITSUISCHI (Hiroyuki), DÉCONSTRUCTION ET RECONSTRUCTION DE LA MÉTAPSYCHOLOGIE FREUDIENNE - EAAAI D'ÉPISTÉMOLOGIE SYSTÉMIQUE -, Lille Université de Lille 1993, 537p

³ 三石博行 「生活情報構造分析のための阪神大震災以後の生活情報発生調査中間報告」第5回情報文化学会全国大会発表予定、1997年11月8日、東京、東京工業大学、

⁴ 朝日新聞社 「1995年度CD-ROM版」「1996年度CD-ROM版」